富山・小出城跡（こいでじょう）

1　所在地　富山市水橋小出
2　調査期間　二〇〇三年（平15）七月～一〇月
3　発掘機関　富山市教育委員会埋蔵文化財センター
4　調査担当者　鹿島昌也・安達志津・稲垣裕二
5　遺跡の種類　平城跡
6　遺跡の年代　室町時代～江戸時代（安土・桃山時代が主体）
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

小出城跡は富山市の東北部、水橋小出地内の小出神社周辺にあったと伝えられている。天正九年（一五八一）三月、「小出の戦い」で織田信長方の佐々成政と越後上杉景勝方が戦火を交えた際の、織田方の前線基地として越中戦国史に登場する。『越中古城記』には「南北二十二間、東西三十間の平城」と記されている。しかし、正確な絵図面、史料が残っていないうえに、現在一帯が水田化されているため、具体的な位置や規模は特定されていなかった。

（魚　津）

今回、県道拡幅工事に伴い約一九三㎡の発掘調査を行なったところ、小出神社北側約一五〇mの位置に、幅六m以上（推定幅約一〇m）の堀一条（SD〇一）を東西方向に延長三三mにわたって検出した。深さ約一m、傾斜角度約二〇度の堀である。この堀と小出神社の間に、小出城の中心部があったと推定される。今回の調査で大規模な堀が確認されたことで、約六〇m四方とされている文献記述を大幅に上回る規模の郭だった可能性が高くなった。

木簡はすべて堀SD〇一の覆土（粘質土層）から出土した。他に、堀の中からは珠洲焼や中世土師器、越前焼、瀬戸美濃、青磁など国内外の陶磁器類をはじめ、漆塗椀、人形、機織り機の部材、曲物、蓋、編み物、子供の下駄、永楽通宝、炭化種子など、当時の暮らしぶりがわかる遺物が多数出土している。

8　木簡の釈文・内容

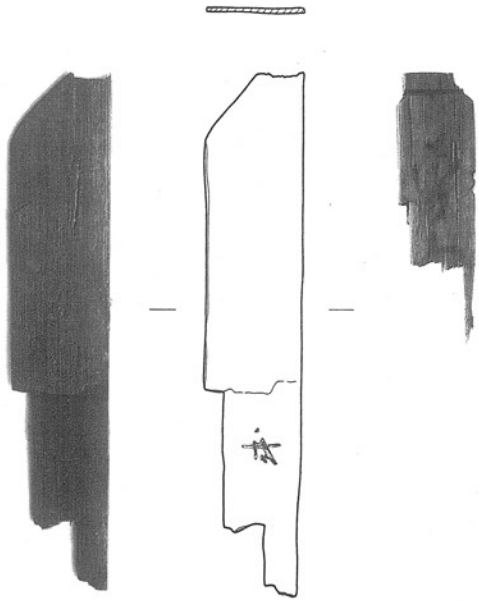
(1)　「∨（刻線）南□□　(110)×30×2　061

(2)　「□廿　(39)×(204)×2　061
　　 　み」

(1)(2)とも下部が欠損している。墨痕は不鮮明であり、判読しがた

い。(1)は上部に切り込みがある。(2)は上部に加工した痕跡があり、曲物の底板材と考えられる。

（稲垣裕二）



(1)

(2)

新潟・下前川原（しもまえかわら）遺跡

1 所在地　新潟県豊栄市高森字下前川原

2 調査期間　二〇〇二年（平14）一一月～一二月、二〇〇三年三月～四月

3 発掘機関　豊栄市教育委員会

4 調査担当者　遠藤恭雄

5 遺跡の種類　集落跡

6 遺跡の年代　古代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

（新　潟）

下前川原遺跡は阿賀野川の河口から六・五kmほど上流の、旧流路右岸の自然堤防上に位置し、水田基盤整備事業に伴って二〇〇二・二〇〇三年度に調査を実施した。調査地点の標高は二・五～三m、調査面積は一八九九m^2である。

検出遺構は溝四四条、井戸一〇基、土坑二五基、ピット八九五基である。遺物